

Emergency Watch

No.64 Apr. 2016



【疾患頻度】

- | | |
|--------------------|--------|
| 1. インフルエンザ | : 962人 |
| (A型173人 B型574人 確定) | |
| 2. 急性上気道炎・咽頭炎 | : 891人 |
| 3. 感染性胃腸炎 | : 355人 |
| 4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 | : 89人 |
| 5. 感冒 | : 73人 |



先月も多くのインフルエンザの患者さんが神戸こども初期急病センターを受診されました。4月にはいよいよ流行が落ち着いてきたでしょうか。インフルエンザ以外で高熱がでる病気に溶連菌感染症があります。春から初夏にかけて流行する感染症のひとつですので、今回は溶連菌感染症についてご紹介します。

Q1：特徴・症状は？

溶連菌という細菌が感染することにより、咽頭炎・扁桃炎、猩紅熱、急性糸球体腎炎、リウマチ熱など様々な病気が起きる可能性があります。初期には、39～40℃の発熱、のどの痛み、のどの粘膜の腫れ、扁桃腺への白い膿の付着などの症状がみられることが多いです。また、口の中に赤い小さな出血斑や、舌の表面がイチゴの表面のようになる「イチゴ舌」がみられることもあります。顔や腹部などに発疹が出ることもあり、ひどくなると全身に広がり真っ赤になります。また、高熱はあるけれど咳があまり出ないということも特徴とされています。

Q2：どのように感染しますか？

患者さんのくしゃみなどにより、菌を含んだ唾液などの飛沫を吸い込むことで感染します。家庭や学校などで集団感染することがあり、兄弟姉妹では約50%、親子では約20%で感染するとの報告もあります。特に高熱が出ている期間には感染力が強いため注意が必要です。

Q3：検査でわかりますか？

インフルエンザと比べると知られていませんが、のどの菌を綿棒で採取することにより迅速検査が可能です。ただし、検査前に抗生物質を飲んでいると菌が検出されにくくなり正確な診断ができません。

Q4：治療法は？

抗生物質の内服が有効です。通常2～3日の内服で熱が下がり、のどの痛みや粘膜の腫れがおさまります。ただし、完全に治すためには1週間以上の内服を続ける必要があります。症状が良くなってきたからといって自己判断で薬を中断してしまうと、再び溶連菌が増殖し、急性糸球体腎炎やリウマチ熱などの合併症を起こす危険があります。急性糸球体腎炎は溶連菌感染の3～4週後に血尿やむくみなどの症状が出て発症します。リウマチ熱は感染の3週後に関節炎や心炎で発症することが多いです。これらの合併症を起こさないためにも、医師に指示された服用方法をしっかりと守りましょう。